

ヤマウチ フトシ

山内 太

経済学部・教授

博士(経済学)／東北大学

主な研究業績

●「近世期における田地所有者と耕作者の変遷史」(『東北学院大学 経済学論集』第177号2011年)

●「土地所有構造・土地利用からみた天保凶作の影響」(『飢饉・市場経済・村落社会』2010年)

●「近世村落社会における共同性の諸相」日本村落研究会編(『近世村落社会の共同性を再考する』2009年)

研究テーマ

市場経済形成期の村落社会

概要

日本の村落社会をフィールドとして、市場経済がどのように村落社会に浸透していったのか、あるいはそれに対して村落社会はどのように対応していたのか。主に18世紀から19世紀を対象に、市場経済の発展と村落社会構造との関連を実証的に研究している。地域の文書館や博物館、あるいは旧家に残された古文書を解読し、さらには地域の古老等からの聞き取りなども行いながら研究を進めている。また村落社会構造との関連で市場経済発展の様相を明らかにしようとする研究であるため、経済学的手法・視点に留まらず、農村社会学や民俗学、民族学、人類学等、他の隣接諸科学の知見、手法をも利用、参考としながら研究を進めている。

現在は特に土地所有・移動、利用を中心に研究を進めている。土地は非常に重要な財であることは言うまでもないが、また一方で「商品」となりにくい財でもある。近代的な私的土地所有権が国家によって制度的に確認される以前に、その土地所有や利用あるいは移動が、どのように為されていたのか、そしてそれが近代以降にどのように変遷していったのかを研究している。

応用分野

地域開発

歴史的視野から各地域を見直すことで、村落構造や経済・産業の変遷を確認し、先人たちの知恵に学び、あるいは歴史的遺産を用いながら、村落や地域の新たな振興策について検討する事ができるだろう。また日本のみならず、発展途上国の農村開発にとっても、日本の事例を、一つのモデルケースとして提示することができるのではないかと。

共同研究へのニーズ

もともと隣接諸研究との統合を強く意識しながら研究を進めているので、上記研究のみならず、その他の様々な研究、特に自然科学系研究部門との共同研究は有意義である。例えば自然地理学、河川工学、農学に係る諸研究等との共同研究は、新しい知見をもたらしてくれるのではないかと期待している。